

## 「無邪気な」や「誠実な」

うそのような本当の話です。中学生が通学に袈裟（けさ）がけカバンを使っていた頃のことです。登校した男子生徒が「家にカバンを忘れました」と言ってきたことがありました。何かよほど心奪われることがあったのでしょうか。学校に到着してから気づき、本人がいちばんびっくりしていました。

先日、いつも自転車を押して私の前を通過するA君の姿が違っていました。ヘルメットを被っていないのです。前かがいでも入れているのだろうと思って、前方に目をやりましたが、確認できませんでした。彼はあいさつをして、自転車を押しながらそのまま通り過ぎていきました。

翌日、彼はヘルメットを被って私の前にやってきました。あいさつを交わした後、私は気になっていた前日のことを尋ねてみました。

「A君、昨日はヘルメットかぶっていないなかったよね。どうでしたの？」

「（ヘルメットを）忘れました！」

彼は恥ずかしそうにこう答えました。

「ここまで自転車を押してきたということは、どこかかぶっていないことに気付いたんだよね？」

「〇〇あたりで気付きました。」

「えっ、そこから自転車を押してきたの？」

「はい！」

私はびっくりしました。〇〇地点から学校までは結構距離があります。おまけに、自転車を押しながら長い距離を歩く姿に注がれる周りの視線も気になるでしょう。しかし、彼は、頭の上にヘルメットがないことに気付いた〇〇地点から、自転車を押しての徒歩通学に切り替えたのです。

私は感動しました。こんなに誠実な中学生の姿を目の当たりにしたのは久しぶりです。中学生時代の私が、彼の立場だったらどうしていたでしょう。「バレなきゃいいだろう」というずるい考えが浮かび、ヘルメットなしで学校近くまで乗っていたかもしれませぬ。

私はうれしくなりました。だましたりごまかしたり、（きまりを）破ったり無視したりすることが毎日のように起こっている世の中ですが、若者の中にはピュアな心が確実に育っているとわかったからです。大人からすると、カバンやヘルメットを忘れることは不注意かもしれませぬ。しかしそれは無邪気（むじゃき）ゆえのことだと私は考えています。

「無邪気さ」と「誠実さ」。この二つは、生徒の皆さんにいつまでももち続けてほしいと願っています。

（十一月二十七日 記）